

# 幼い難民に未来を



発行：幼い難民を考える会 〒160 東京都新宿区南元町6-2 TEL. 03-3353-9947 FAX 03-3353-9739

カンボジアでの  
活動が始まる



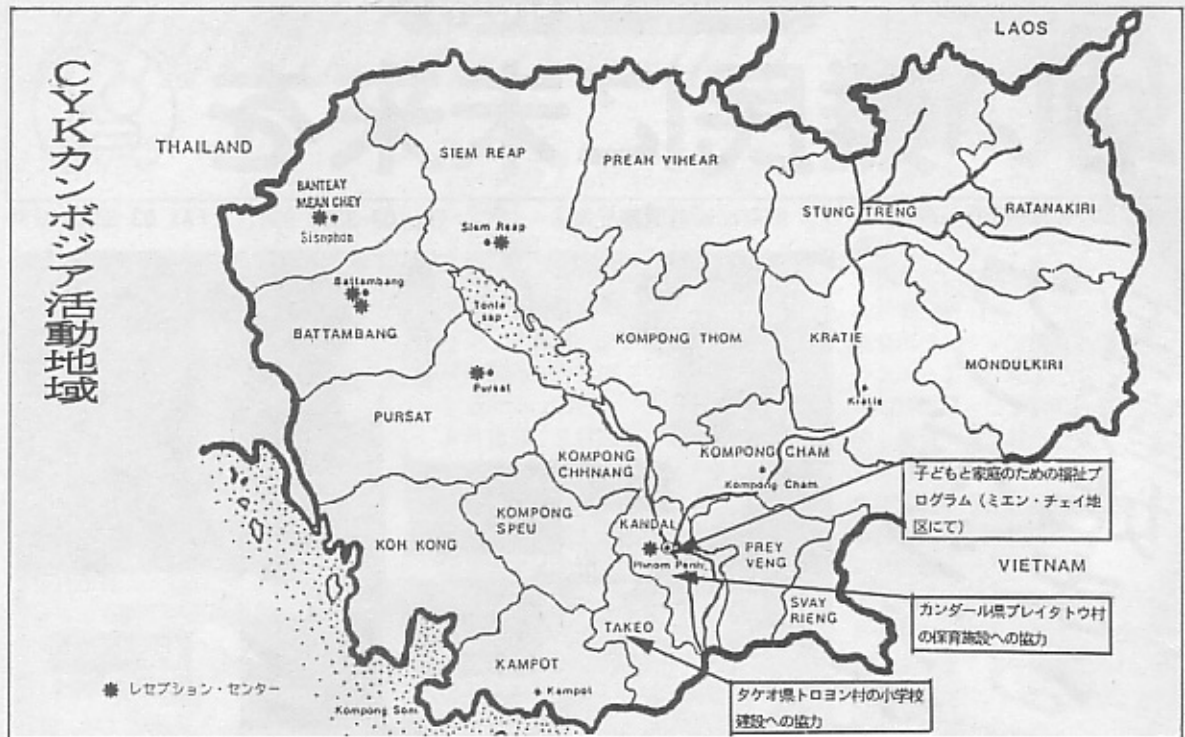
左から在カンボジアスタッフのオラタイ、スパーバと深水代表代行。CYRの事務所

幼い難民を考える会(CYR)が活動拠点としてきた、タイ・カオイダンキャンプが、「カンボジア難民収容所」から「カンボジア本国帰還者のための技術訓練センター」へと名称を変えたのは、昨年1月でした。2年近くたった去る12月2日、カオイダンキャンプでは、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)による、住民への帰還希望地調査を含めた登録が

始まりました。これより先に、国境の避難地にいる約34万の人々の登録作業は12月現在ほぼ終わろうとしています。しかし、国内の食糧不足、治安の悪さ等が原因で、今もなお避難地に流入する人は絶えません。そのためもあり帰還が始まる直前に、国連は2回目の調査を予定しています。

10月23日のカンボジア和平協定調印のあと、11月21日にはSNC

(最高国民評議会)の代表、タイの代表、UNHCR代表の3者が「カンボジア難民帰還援助計画の覚え書き」に調印。国連の帰還作業が正式なものとなり、1993年に予定されている選挙の前に終了するよう、作業はすすめられています。計画によれば、帰還する人たちは、国内6か所につくられるレセプションセンター(受入れセンター)に約1週間滞在し、住宅用



2

資材と2か月分の食糧を受け取ったのち、希望の場所に戻ることになっています。その土地で十分な収穫が得られるまでの約1年間、カンボジア赤十字が配給を続けることになっています。この食糧はWFP（世界食糧計画）からのものです。移動開始がいつになるかはまだ未定で、帰還する人は準備が整うまで待つようにというキャンペーンを国連は行なっています。

帰還希望地は国境の避難地の人たちの場合、出身地のほか、タイ国境に近く地質のよい、経済的にも豊かなバタンバンを約70パーセントの人が選んでいるようです。希望地に土地を持っていない人には、1家族につき、2～3ヘクタールの土地がカンボジア政府から与えられることになっています。

カオイダンキャンプで、CYRスタッフがカンボジア人の何人かに聞いたところによれば、地方出身者で今も出身地に身内が残っている人でさえ、仕事がある都市に行きたいと思っているということです。若い人たちは、1970年に始まった内戦と、そのあとの長いキャンプ生活で農業の経験がなく、農村には住めないと思っているようです。

難民の帰還がうまくいくかどうかは、帰った地に定着できるかどうかにかかっています。国連を初めとして、国際機関、民間団体もそのための協力態勢をとっています。CYRも微力ながら、カンボジア国内の子どもたちの生活環境を整え、親が安心して子どもをあずけて仕事ができる場づくり、仕

事をする場の提供等ができるよう、活動を始めています。

## CYKとしての活動

CYRでは、昨年2回にわたりカンボジアでの調査を行ないましたが、実際に活動を始めるには、まずカンボジア政府との契約が必要です。そのため、カンボジアの18歳以上の女性の多くがメンバーになっている「カンボジア女性協会」を窓口にして、今年7月から何回かにわたり、現地に派遣されたスーパーバ・オンサクル、上田広美が外務省との折衝にあたりました。

カンボジアで活動する場合、対象者が「難民」ではないため、CYR (Caring for Young Refugee, Refugees=難民) は使わず、CYRの1部門として、CYKをあら

たにつくりました。このCYKは Caring for Young Khmer (Khmer はクメール民族、カンボジア人のこと)の略称です。スーパー・オンサクルが、CYKの代表となりました。

活動地域は、プノンペン市郊外のミエン・チェイを予定しています。最近テレビなどでも、プノンペン市の復興ぶり、活気などは報道されています。それに比べ、地方の復興はまだまだこれからで、多くの問題を抱えています。しかし、CYKがすぐに地方を拠点として活動するには、道路事情、地雷の心配、治安等の面から不可能です。そのため、プノンペン市の中心から車で20分ほど離れた、この地を選びました。

その理由は、①当会が活動の中心にすえている幼児の生活環境が非常にわるい(湿地帯で衛生状態がよくない、栄養障害の子どもがめだつ等) ②女性が世帯主で、子どもをたくさん抱えている家庭が多い ③地方からの流入者が多

い。この③は、なぜ農村を離れざるをえなかったかを知ることにより、今後の地方での活動に生かすことができると考えたからです。

8月には、東京から神保理事とカンボジア語の相談を担当しているミム・ソワンが活動予定地視察のためにカンボジアを訪れました。しかし、ちょうど30年ぶりといわれる大洪水の後で、ミエン・チェイは水浸しで、残念ながら近づくことができませんでした。幸いこの期間、住民は安全な所に避難できたようです。

10月、事務所をプノンペン市内南に設けました。2階建てで、事務所と宿舎を兼ねるものです。契約は1年。11月のシアヌーク殿下の帰国後は、外国人が増え、市内の家賃は1.5～2倍にはねあがったといえますから、よい時期に決めたといえるでしょう。

## 政府との契約成立

11月、まだ政府との正式な契約が結べないため、活動予定地ミエ



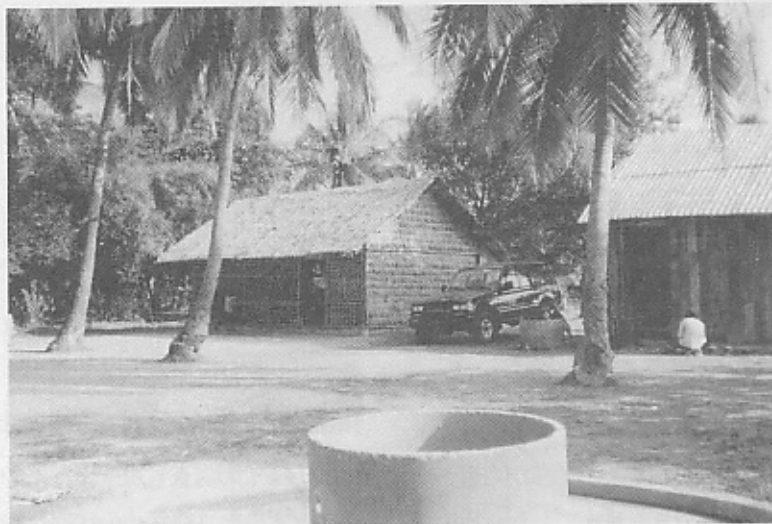
ン・チェイの調査も思うようにできず、ずっと「待ち」の状態が続いていましたが、ようやく許可が降りるとの連絡が入り、スタッフもひと安心。12月に契約式が行なわれることが決定。7月からこの間4か月間、外務省を初め、関係団体との連絡調整、申請書の手直し、そして、その結果待ちなど、神経の休まるひまもなかった在カンボジアのスタッフです。

12月、フィールドコーディネーターとして、タイ人のオラタイ・サートウギグンが加わり、上田広美はタイにもどりました。

12月12日、日本から当会の深水正勝代表代行と、事務局長の峯村里香がプノンペンに行き、カンボジア政府との契約式に参加。合意書にサインして、カンボジアでの活動が正式にスタートすることになりました。

契約までに予想以上の時間がかかり、すでに、会報26、27、「年次報告書1991年」でお知らせしたスケジュールが、だいぶずれてしまいました。プロジェクトの内容





これからCYKが保育に協力するカンダール県の保育園。

も、カンボジア政府からの要請であらたに加わったものもあります。また、これから本格的に行なう調査の結果を分析し、プロジェクトの内容を、より地域住民の要望に近づけていきます。

### プロジェクトの概要

カンボジアでのプロジェクトは大きく3つに分かれます。

#### 1 子どもと家庭のための福祉プログラム (ミエン・チェイ地区にて)

ミエン・チェイ地区はプノンペン市の南に位置し、7つの村に分かれています。1882世帯を抱えるこの地区に保育施設は1つ。5歳までの幼児は878人。(数字はカンボジア女性協会の資料による)

ここで、子どもが心身とも健康に成長できるよう、家庭が本来の役割を取り戻すことを目的に活動を行ないます。具体的には、①家庭が抱える様々な問題の解決にあ

たる「家庭相談員」によるカウンセリング。②栄養状態の良くない子どもに対する補助給食。③子どもへの予防接種。④家庭の生活向上のための技術訓練等を考えています。

来年(1992年)1月から3月にかけて、ミエン・チェイ地区の本格的な住民調査にはいります。この結果をふまえ、具体的な部分は決定していきます。

#### 2 訓練プログラム

1の「子どもと家庭のための福祉プログラム」を支えるプログラムです。カウンセリングにあたる家庭相談員、保育者の訓練・養成を行ないます。また、家庭が持っている育児能力を強化するため、母親に対する知識普及活動も行ないます。

#### 3 特別プログラム

CYKの活動の目的にかなう、ほかの団体が行なうプロジェクトへの協力。

#### ① カンダール県プレイトウ村の保育施設への協力

カンボジア女性協会、ユニセフとの共同事業。建物(5m×3m)はユニセフが今年の1月に建て、約50人の子どもが通う予定になっています。CYKは、保育のプログラムづくり、保育者の養成、教材の開発・提供、補助給食、資金援助で協力することになりました。1992年1月より実施。

#### ② タケオ県トロヨン村の小学校建設への協力

現在トロヨン村の子どもたちは村に小学校がないため、約4キロ離れた小学校まで通わなければなりません。そのため小学校に登録していても通っていない子どもが多いのです。カンボジアの小学校の就学率は30~80パーセントと、地域によって非常に差が激しいのですが、それは小学校が近くにあるか、ないかによることが多いようです。トロヨン村周辺には4つの村があり、トロヨン村に小学校ができれば、5つの村合わせて約400人の子どもたちが通うことができます。この小学校建設に必要な資金は現時点で約200万円です。



タケオ県の小学校建設予定地。建物は旧小学校。

戦闘に明け暮れたカンボジアの21年間。ようやく和平協定の調印にいたったわけですが、「ほんとうに平和が訪れるのだろうか」と半信半疑でいるのがカンボジアの人々の心境のようです。いつのまにか戦争に巻き込まれ、戦争が終わったと喜んだのも束の間、今度は自由と多くのものを奪われた4年間、その後の内戦……今度は「平和」といわれても、にわかには信じられないことでしょう。

でも、これからのカンボジアを再建していくのは普通の人々であり、とくに次代を担う子どもたちです。CYRは「普通の人々」の気持ちを大切に活動を行なっていきたいと思っています。

みなさんはカンボジアでの活動についてどうお考えでしょうか？ CYRの活動はまだ、細かい部分が決まらない骨組みの段階ですが、どうぞご意見お聞かせください。

## スタッフ募集中！！

現在カンボジアのプノンペン事務所には、タイ人スタッフ2人がいるだけです。(カンボジア人スタッフ2人募集中)

CYRでは、東京との連絡、渉外、会計を担当する人、およびプログラムの現場を、子どもの視点から見られる人の計2人の日本人スタッフを募集中です。タイ人、カンボジア人と組んで仕事をするため、英語で仕事ができることが最低必要条件となります。カンボジアに行ってからカンボジア語の研修もあります。海外での活動経験があればベストです。ご興味をおもちの方は、下記のCYR事務所までお問い合わせください。

幼い難民を考える会 (CYR)  
〒160 東京都新宿区南元町6-2  
TEL 03-3353-9947

カンボジアのプロジェクトは、年間予算20,000,000円の規模になります。内訳は

プロジェクト費	10,000,000
管理費	10,000,000

これはCYRの今までのカオイタンでの活動の年間規模を少し上回る額です。現在までのところ、国連カンボジア人道援助計画事務所から52,200ドル(約6,786,000円)の助成金とCYRの自己資金7,000,000円で約7割は目処がついています。しかし、残りの3割6,000,000円については、いくつか助成団体に協力をお願いしていますが、かなり厳しい状況です。

## カンボジアプロジェクトを支えるみなさまへ

難民援助ではなく、ある国の人々への協力活動に対しての助成はなかなか得られません。

事務局では、もちろんこれからも助成団体に働きかける努力をいたします。しかし、新しいプロジェクトは、事務局と現場だけではうまく動きません。会員や関心を持ってくださる方々に支えられて初めて軌道に乗るものです。

カンボジアプロジェクトへのご支援は

郵便振替 東京1-36227

幼い難民を考える会

用紙の裏に「カンボジア募金」

とお書きください。



タケオ県トロロン村の子どもたち。

# 希望の家レポート



6 今回の希望の家レポートは、今年の9月からタイでスタッフとして働きはじめた高田美江子の報告と、夏休みを利用してカオイダンキャンプを訪れた日本の小学生の感想をお届けします。

## ●新参者のキャンプ生活

保育園の子どもたちは実にのびやかです。明るさ、かわいらしさ、たくましさ、この3つの要素は、どこのだれにも負けません。閉鎖された環境というのは、一見子どもたちには無縁のように感じられます。砂ぼこりの中を走り回る姿、木登りに興ずる様子、野道をはだして歩く楽しい散歩など、教えられることも多く、ぜひ、日本の子どもたちや大人たちにも見てもらいたい光景です。

子どもの世界は不思議です。クメール語（カンボジア語）がまったくわからない新参者の私にいつも語りかけ、遊びに誘い、あきらめを知りません。その力につられ

いつの間にか、私もゲームに遊びに加わり、また逆に、少しずつ遊びの小袋の中から遊びを取り出して提供することができます。その時、ことばを越えて共鳴しあえる瞬間がもてます。子どもを通し、カンボジアの保育者との心の交流も徐々に広がると信じています。

この子たちを見ていると、目の前に立つあのカオイダン（イダン山）と一緒に登りたい、外の世界を見せてあげたいという衝動に駆り立てられます。その時初めて、鉄条網の存在の大きさに気づき、愕然とします。

保育者たちも、毎日外と行き来する異邦人と違い、ここでの暮らししかありません。新参者の私から、外の空気を吸収しようと懸命



です。子どもを忘れるほど鬼ごっこやボール遊びに熱中してしまう無邪気な保育者たちの姿。彼らを見ていると、このあふれる、若いエネルギーをもっと何か充実させてあげたいと心から思います。

毎日の保育が、彼らの意見や活力を今以上に反映し、エネルギーを発揮できる場になればと思います。それは、子どもたちへもよい影響を与えることでしょう。彼らが自分たちで考え、自分たちで力を発揮できる環境づくりに私が役立てたらと考えています。

キャンプは、織物も洋裁も木工も、すべてタイ人スタッフとカンボジアの人たちによって実によく運営されています。しかし、今の安定した運営状態ができるまでの長い歴史、スタッフの苦勞を思うとその意味はさらに重くなります。

始まったばかりのキャンプ生活で、自分にできることは何か、何をすべきかといった模索はまだまだ続きそうです。（高田美江子）

撮影/飯田照明

## ●カオイダンで鬼ごっこ

ほいく園のへやの中には、くだものや、動物、みんなの顔の絵がいっぱいありました。そのほかにカンボジアの人たちが、カンボジアにかえっていても、まだそんなふうしたときの地雷が土の中のコっていて、でもほいく園の子たちはそのこわさをしらないので、どれくらいこわいかを、かいたせつめいと絵がはってありました。

そこのほいく園では、子どもたちが遊んでいるあいだ、子どものお母さんがおりものをおってはたらいしていました。つみき、ぶらんこ、ままごと、なにからなにまでせんぶ竹でできています。ほいく園にはだいくさんたちがいて、遊ぶものはせんぶそのだいくさんたちがつくっているみたいです。

ほいく園の中では、みんなブロックやそういうもので遊んでいました。わたしもなかまにはいってパズルやつみきいろいろみんなで遊びました。そのあとはみんなで外にでてげんきよく遊びました。おにかけけんけんしながらおいかける遊びで、わたしは4回ぐらいお



にになりました。みんなと友だちになっていっぱい遊んで、かえりにみんなで手をふって見送ってくれました。わたしはそこですこく

あせをかいて、その日はぐっすりねました。(相川宏子・小3)

★夏休み絵日記紙芝居より／岡山支部の会報「アブサラ」から転載。

## かおひだんかわら版

### 登録より第三国



十二月二日、カオイタンキャンプでも、いよいよ本国帰還の登録が始まりました。しかし、事前にまったく知らされていなかったため、朝の放送で突然伝えられた住民は戸惑っていました。登録はキャンプ内にあるお寺で行なわれ、

大勢が様子を見に集まりましたが、実際に登録をする人は少なかつたようです。これは、登録を受け付けたのが、いつもキャンプにいる国連の職員(UNHCR＝国連難民高等弁務官事務所)ではなく、国境の避難地サイト2から来たU

NBRO(国連国境救援機関)の職員だったことにも原因があるようです。

和平への動きについては、ラジオの「ボイス・オブ・アメリカ」やビデオで知っている住民ですがそれでもなお、外国に行きたいという人が大半です。そのため帰還の登録をする人が少なく、受付期間を二度にわたり延ばしましたがはたしてどのくらいの人たちが登録を済ませたかは未発表。

住民たちは、本当に平和が来るのかという疑問に加え、地雷、ゲリラ、マラリヤへの不安もあり帰還をためらっているようです。

★帰還が始まったら……

帰還の時期がいつになるか、まだはっきりしていませんが、その時期が近づいたら語学学校、技術訓練、農業、学校関係(年齢の高い学校が先、保育園は最後)の順に教室を閉じる計画がUNBROより発表されました。

## 初めての総会・事務所



今年6月末に行なわれた総会に出席してもらったため、タイのバンコク事務所から初めてシビカ・ブラコブサンティスクが日本にやってきました。7月には大阪でタイの被災村での活動を中心に報告しました。これはその感想です。

東京で開かれるCYRの総会に出席することになったとき、たいへん興奮しました。というのも、日本は独特の文化を持つ島国だと聞いていてとても興味を持っていたのと、ずっと私なりに想像していたCYRの本部を訪れることができると思ったからです。

東京の第一印象はというと、輸送機関、空港の手荷物運搬サービス、それに空港からの電車などが快適だなと感じたことです。時間が経つにつれてだんだんと、日本人の決まりを大切にする習慣、輸送システムの便利さ、高層ビル、日本文化、寺院や美術館などにも感銘をうけるようになりました。私にはすべてが目新しく、心奪わ

れるものばかりだったのです。

しかし何といってもいちばん印象的なのは、東京の本部事務所とそのスタッフの方々のことでした。事務所のほとんどの方は、タイにいらした時お会いして知っていたのですが、事務所は想像とだいぶ違いました。タイと東京とは非常に遠いため、事務所とは在タイの日本人スタッフを通じてしか接触することができなかったのです。でも今度事務所を訪れて、今までの想像が一新されました。小さいながら温かい雰囲気のとてスタッフの姿が、私の心にしっかりと焼きついたので。とくにタイに戻ってから、誰がどこで何をしているかなと、親しみをもって事務所のことを考えるようになりました。東京事務所とスタッフがたいへん身近に感じられるようになり、自分で連絡をとるのも気楽にできるようになりました。

また、会員の方たちもたいへん

親切にしてくださったことを思い出します。総会であがりながら報告した時も、会員みなさまの温かい励ましを感じました。しかし中にはタイでの私たちの活動をまだ本当の意味では理解していらっしゃらない方がいることも感じました。私から東京が遠かったようにその方たちにとってもタイは遠く、違った文化や社会の下で何が起きているか想像しにくいのかもかもしれません。機会があれば、私はこういう人々のために、現地のことをもっとはっきりした形で伝える役割を果たしたいと思っています。

大阪では、私の拙い英語を聞いてくださって大変申し訳なかったと思うと同時に、言葉の問題に多くの時間がとられ、質疑応答や議論がしたかったのにできなかったことを残念に思っています。通訳を通じて語れたのに、能力不足で自分たちの活動について明確に伝える機会を逃してしまったのが残念でたまりません。

しかし、とにかく幾つもの改善すべき点がわかったのですから、本部を訪ね、総会に出席でき、本当に感謝しています。現地スタッフとして日本側のことがわかってよかったし、私たち現地スタッフと支えてくださっている方々の相互理解を深める良い機会だったと思っています。

シビカ・ブラコブサンティスク  
(日本語訳/伏木百合子)



### <キャンプの生活>

寝ること、食べるということ人間として最低の生活は保障されているが、水、電気はない。食糧は国連からの配給によってまかなわれ、燃料はゴムの木を同じく国連から支給されている。

他のキャンプに比べ、すべての面でかなり恵まれた環境である。キャンプ内での物の売買は禁止されているが、実際はタイの商人などによりマーケットも開かれている。女性は、昼間洋裁教室などで技術を身につけている。

キャンプには大きな寺があり、人々の精神的よりどころとなっており、信仰心は厚い。また占い師もいて、訪れる人は多い。

### <教育>

カオイダンキャンプには、高校までの教育施設がある。教師はキャンプで育ち、教育を受けた者が教壇に立つ。教科書は国連から出たお金でアメリカの団体が支給しているが、シンガポールでのプログラムを使っているせいか、内容的にはかなり高度。

### <母親教室の実施>

子どものケガ、病気に対する措置法をわかりやすく絵と文字で布に印刷。(写真)

### <地雷の恐怖>

キャンプ内には地雷をケースに入れて展示してある。地雷を見たこともない人も多い。もし見つけた場合の対応など説明されている。カンボジア国内に残る地雷問題は



## 母親教室と 帰還の動き

報告/湯山佳代  
12月14日の報告会より

深刻で、地雷により負傷した人のためのリハビリセンターもある。スタッフはみなカンボジア人で、ここでの経験は今後おおいに役立つだろう。

### <帰還への動き>

帰還についての対応は、人さまざまであるが、カオイダンキャンプに限って言えば、戻りたくないという人がほとんどであるが、国境避難地の人々は帰還希望者も多いと聞く。戦乱に巻き込まれ、訳

もわからず逃げてきた人々は帰りたいと思うであろうが、いちばん混乱していたとき、国に留まり耐えていた人たちとの摩擦が心配される。特に、子どもに対するいじめなど、親にとっては気に病む点である。

### <質疑応答>

Q 帰還への道中地雷の心配はないのか?

A 国連の指導のもと、幹線道路を使っていけば今のところ問題はないが、雨などで地雷が流れている場合もあり、油断はできない。

Q キャンプ内に精神的な面でのカウンセリングを行なう場所はあるのか? ある医師の報告によれば、援助漬けの生活にかなりストレスを感じている人もでてきていると聞くが?

A フランスの団体がカウンセリングを行なっている。青少年が特に将来に対して不安、いらだちを感じているが、人々はやる気もあり、援助漬けに甘えてはいないと思う。

(まとめ/小西陽子)

音楽と子どもの大すきな人

1992年4月19日(日)

親と子のコンサート「聴く絵本」(仮題)

コンサートの実行委員募集中です。

CYR事務所にご連絡ください。

☎03-3353-9947

ただいま  
たった1人の  
実行委員  
前田エリカ



## ご寄付いただいた方々

1991年6月～11月30日(敬称略)

- |      |                     |      |                    |
|------|---------------------|------|--------------------|
| 北海道  | 小山田彰 綿山ひとみ 松浦芳子     | 山梨県  | 康友の会 柴田悦子 志村悦子 湘南み |
| 青森県  | 佐藤美千代 弘前学院聖愛高等学校    | 新潟県  | こころ会 鈴木和子 田島敏子 多田寿 |
| 秋田県  | 佐々木美智子              | 長野県  | 美子 谷口恵子 田村紀子 砥川陽子  |
| 山形県  | 本田香奈子               | 富山県  | 長尾謙治 バイニイ 東川悦子 日高禎 |
| 福島県  | 佐藤豊子 高木芳久           | 石川県  | 郎 ともしび会 藤井節子 目島公男  |
| 茨城県  | 佐藤生子 関口博美 田之室光子 豊田  | 福井県  | 森戸潔 八木本菊代 八重ゆかり    |
|      | 一郎                  | 静岡県  | 大東加代子 中村由美子        |
| 群馬県  | 東別所地区ガレージセール        | 愛知県  | 阿部 清 新潟中央消印        |
| 埼玉県  | 一志悦子 石山民子 打越章子 亀山見  | 三重県  | 円福友の会 神津佳子子 湯浅健    |
|      | 代 富田清江              | 滋賀県  | 山田ゆりえ              |
| 千葉県  | 鬼崎貞子 国府台聖愛乳児園職員一同   | 京都府  | 岩本玉陽               |
|      | 小西良和 斉藤正成 坂内和子 佐々木  | 大阪府  | 国際交流協会             |
|      | 秀子 篠原登代 鈴木和子 関根錦 高  | 兵庫県  | 南荘宏・教子             |
|      | 森雄二 土山美知子 中崎みどり 林雅  | 奈良県  | 池田透 伊藤洋子 井上貞子 岡本啓子 |
|      | 雄 宮崎眞理子 矢ヶ部留美子      | 和歌山県 | 関口ひろ子              |
| 東京都  | アイランドツアーズセンター 飯尾香織・ | 徳島県  | 奥山卓二               |
|      | 美園 石井孝子 石沢政子 板垣昭代   | 香川県  | 金城学院高等学校 寸田一夫 豊田一郎 |
|      | 井上貞子 井ノ部百合子 岩本磯子 宇  | 愛媛県  | 伊崎佳明 難民援助宮津カトリックの会 |
|      | 津野和子 大蔵万智子 大河内秀人 太  | 高知県  | 福田菊                |
|      | 田和 大鷹弘 大嶺ヨシ子 岡積千可   | 福岡県  | 伊藤峰明 カリタス・ジャパン大阪支部 |
|      | 小川照子 奥野幸子 小河内則子 尾平  | 大分県  | グループみなみかせ 佐々木三千弘 西 |
|      | 佳津江 海江田知恵子 片平百合以 カ  | 鹿児島県 | 島己美子 呑野佳子 森潤子      |
|      | トリック麻布教会 角南宗純 北沢隆男  |      | 岡本タイヤ 小林聖心女子学院みこころ |
|      | 鬼頭璋子 木村美光 喜谷由紀 草場弘  |      | 会社会事業部 神戸平安教会婦人会 白 |
|      | 子 熊谷ことち 黒田康介 栗野鳳・美  |      | 井福太郎 田野尚美 橋本啓子 宮前峰 |
|      | 代子 国保証子 小島礼子 小林智恵子  |      | 子                  |
|      | 小宮正弘 さつき会宗教サークル 佐藤  |      | 高島曜子 宝田淑絵          |
|      | 慧子 佐藤国作 白坂典子 鈴木重子   |      | 岡山県                |
|      | 鈴木みのる 鈴木ヨシ 鈴木順子 高江  |      | 清水教子 難波幸矢          |
|      | 洲朝子 高崎昭子 滝沢由理 田尻陽子  |      | 広島県                |
|      | 田代泰子 辰濃和男 多野トシ 千屋道  |      | 田川泰資 平井和子 宮川喜代子    |
|      | 粒良京子 渡嘉敷環 鳥栖良子 ドルヴ  |      | 山口県                |
|      | ィック(株) 中園健次 永田立 永戸  |      | 寺町尚子 藤井操           |
|      | 恭子 中村育民 中村克夫 中村義子   |      | 香川県                |
|      | 苦瓜洋子 仁科豊子 野田奈緒子 野田  |      | 田村保                |
|      | 弥重子 島中ルイザ 原加賀子 原康子  |      | 高知県                |
|      | 原葉子 福島敦子 福原和子 伏木百合  |      | 池沢潤子               |
|      | 子 堀信子 本田紀興 松岡和子 松田  |      | 福岡県                |
|      | 邦子 松原幸子 松本楚子 松本尚子   |      | 案浦小百合 安藤玲子 大垣洋子 木上 |
|      | 最上聖子 森伊千雄 森律子 モンテッ  |      | 絹枝 古賀徳子 山口麻子       |
|      | ソリー原宿どもの家 山岸早苗 山極   |      | 大分県                |
|      | 小枝子 山田俊子 湯原 吉田ミナ 渡  |      | 松山医院               |
|      | 辺典子                 |      | 有村光代               |
| 神奈川県 | 石井智子 石井征雄 井出貴江 今井野  |      | 鹿兒島県               |
|      | 梨子 海老沢順子 大下勝巳 大滝弘子  |      |                    |
|      | 大坪 進 大野力 小石英夫 小久保卓  |      |                    |
|      | 二 越島陽子 坂上多恵子 自然食品健  |      |                    |

## 新聞募金

1991年6月～11月30日

- |      |                    |
|------|--------------------|
| 埼玉県  | 打越章子 矢崎千鶴子         |
| 千葉県  | 坂内和子 土谷美知子         |
| 東京都  | 石井孝子 大蔵万智子 木村美光 小西 |
|      | 良和 鈴木順子 千屋道 ドルヴィック |
|      | (株) 永戸恭子           |
| 神奈川県 | 大野力 志村悦子 田島敏子      |
| 長野県  | 神津佳子子 湯浅健          |
| 京都府  | 谷本千里               |
| 大阪府  | 森潤子                |
| 兵庫県  | 木ノ本みえ 田野尚美         |
| 山口県  | 寺町尚子               |
| 鹿児島県 | 有村光代               |

## 物品を寄せられた方々

1991年7月～10月31日

茨城県 飯塚尚美 河口久子 山本満喜  
埼玉県 石井曙 板垣俊子 打越章子 金子節子  
岸田幹子 木村正彦 長島綾子 能登姿  
平野雷 深江直美 藤本紀世子 吉田文  
子 渡辺正子  
千葉県 石塚久子 上原ひろみ 河村好美 木下  
信子 小幡茂子 近藤三津子 佐々木秀  
子 篠崎恵子 小柴輝憲 銭湯恵理子  
大門よし子 高橋鎮子 高山由美子 成  
瀬昌美 原賀智子 菱木邦子 一二三道  
子 藤堂貴弘 本多輝子 山田ゆう子  
吉田弘子 吉田文子  
東京都 青島ゆかり 秋山君代 浅賀要子 綾部  
徳子 荒井千鶴子 飯田真理子 飯田光  
子 飯塚孝子 五十嵐寿子 生越豊子  
石関理子 石橋敏子 石原小夜子 泉本  
亜由 磯田紀子 伊藤明子 伊藤京子  
伊藤千夜子 伊藤たか子 伊藤みつ子  
井上恵 井上美恵子 白井恵美子 薄田  
貞子 宇津木千佳 遠藤ふみ子 大石明  
子 大隈あかね 大隅道子 大澤恭子  
大澤幸雄 大島 大之本都茂美 大塚恵  
子 大橋きよ子 大林みどり 大嶺ヨシ  
子 岡崎信 岡田尚子 小川修子 奥田  
憲子 奥村結子 小倉松枝 小崎けい子  
尾上澄子 尾平佳津江 海江田智恵子  
加賀玉樹 柏木桂子 片山和恵 勝田洋  
子 加藤武生 加藤啓 金田愛子 川崎  
恵美子 川崎瑠理子 河村なきき 神田  
よし子 (株)管理工業研究所 気賀祥  
子 木下郁子 北敏子 木村八重子 日  
下英子 黒岩玲子 黒田康介 小池純子  
河野秀一 交野政博 国際開発ジャーナ  
ル佐田桂子 小島三雄 小林茂子 小林  
敏子 小林玲子 斉藤英二 斉藤静子  
斉藤隆子 坂内礼子 坂本歌子 佐久間  
明子 佐久間英子 笹生メアリー 椎谷  
美恵子 塩口登志江 篠崎信夫 地引通  
夫 島田ミエ子 白石美千子 (有)信  
和ハウス工業 村主敦子 須崎三津夫  
鈴木君代 鈴木千代 鈴木布二子 鈴木  
ヨシ (株)セラ横井 宗美樹子 (株)  
総合プランニング 高島元子 高橋啓子  
高橋好子 瀧川嘉子 滝沢由理 竹内恵  
利子 竹内久枝 竹下江津子 竹本和子  
竹村千万 田島加奈子 田尻陽子 立花  
正敏 田中久仁子 田中靖子 田端地区

有志植田 田村メグミ (株)長江 津  
下本きよ子 粒良京子 手塚美枝子 寺  
田萬里子 テリエンリ トキワ松学園校  
友会船橋 榎木真知子 戸田道子 戸部  
通子 戸山とし子 (株)ドルヴィック  
中嶋寿人 中山玄祥 長島阿佐子 永戸  
恭子 中林義昭 中村晃子 中村医院  
中村義子 西野直子 西村佳津子 西村  
圭子 野口たつ 萩原珠代 萩原秀夫  
(株)博報堂 島中ルイザ 浜野敏子  
林香代子 原田直子 (株)パワーテッ  
ク 日野暁子 平次佐登子 福住吊子  
福田迪子 福田辰治 福田由美子 福本  
清子 藤堂栄子 藤沼順子 布施なほみ  
船橋 古谷多枝子 星野由香 細田千賀  
子 ボランティアグループ宗像幸子 本  
家優子 前田エリカ 松岡享子 松岡玲  
子 松本愛子 松本正子 松本楚子  
(株)マリテック橋本 御巫瑛子 水村  
節子 三林典子 三宅直子 宮副美紀子  
宮田三津江 向井 民 武藤好子 陸奥  
陽之助 村山昭子 森井千香子 箭内祥  
周 矢作紘喜 山崎真紀子 山田清子  
山田妙子 山田暢子 山根通子 湯原  
横内尚美 横山喜代子 ロンゴ幸 若松  
博子 綿林恭子 渡辺恵子 渡辺美智子  
石川礼子 今井野梨子 小俣くに子 鍵  
山典子 加藤広美 金沢由紀子 木口洋  
子 黒木ヒデ子 小出静子 向後正子  
小屋三恵子 齊藤京子 篠田昌子 関和子  
竹本和子 田島敏子 内藤美代子 中西  
淑子 中野順子 島山久子 原田雪子  
東川悦子 福原和子 藤田玲子 藤本博  
子 真室百合子 山之内みさ 由比浜カ  
トリック教会 吉永通子 渡辺道子

神奈川県

長野県

新潟県

富山県

福井県

静岡県

愛知県

滋賀県

京都府

大阪府

兵庫県

広島県

香川県

福岡県

ご協力ありがとうございました。

## CYRきのう・今日

## タイ・カオイダン

7月13日

第25期保育者トレーニング修了。修了者13名の内、5名がCYRの保育園で働く。

8月

CYRの保育センターの養蚕プログラムは第2段階に入り蚕を飼い始める。織物教室の一部を蚕部屋にする。

10月6～9日

カンボジアの盆休み。

11月26日

日本に家族がいる再会ケースの定住希望者83名パナニコム・キャンプに移る。

## 国内

7月4日

東京・世田谷区立中町小学校PTA主催「なかまちセミナー」で事務局峯村が活動報告。

7月6日

大阪府中央区の青少年会館にてCYRの活動報告会。バンコク事務所のシビカ・プラコブサンティスクと東京事務局の山崎が出席。シビカはタイの被災村での活動を中心に報告。

7月13日

訪問ボランティア打合せ。

7月22日、10月4日、11月23日

アドバイスグループ打合せ。バザー、コンサートの話し合い、事務局との意見交換など。

7月28～31日

長野県の円福友の会との共催によるアジア児童親善ホームステイ。



在日カンボジア、ラオス、ベトナムの子どもたち21名が長野の夏休みを楽しんだ。(テレビ東京8月3日放映)

7月28日

アジア交流教室等の主催「リフレッシュ上大岡'91」に難民キャンプの製品、カンボジア料理を出品。収益金69,700円。

8月18日、9月29日、12月1日

ベトナム料理会。講師は千葉県習志野市在住のグエン・ティ・ヨンさんと東京都大田区在住のグエン・ティ・マイ・フォンクさん。メニューは炒めビーフン、ベトナム式お好み焼き、エビとさつまいものてんぷら、生春巻き、牛肉と野菜の煮込み等。於：新宿区角筈地域センター。



8月28日～9月1日

東京池袋西武百貨店での「いのち・愛・人権Ⅲ」展にパネル出展。最終日には在日ラオス人による話と伝統舞踊を披露してもらう。



9月22日

東京・聖心女子大学宮代会バザーに参加。収益金113,105円。カトリック東京大司教区インターナショナルデイのバザーに参加。収益金56,700円。

9月29日

子どもの権利条約ネットワーク委員会主催の「地球社会と子ども」に埼玉県在住のカンボジア人中学



生ボウ・カー・ポー君と事務局石井が参加。日本の学校生活での体験談と、インドシナの子どもたちが抱えている問題を提起。

10月6日

東京ボランティア祭り91年の「ボランティア井戸端トーク」に事務局山崎出席。CYRの活動をPR。於：東京・日比谷公会堂。

10月11日

東京・福生市社会福祉協議会にて事務局峯村が活動報告。

10月27日

第22回幼い難民のためのバザー。あいにくの大雨と初めての会場の割にまずまずの参加者だった。収益金964,819円。於：東京。渋谷区千駄ヶ谷区民会館。

10月27日

京都府宮津市の暁星高校寮で事務局峯村がCYRの活動報告。

10月28日

宮津市・難民援助カトリックの会にて活動報告。峯村。

10月29日

大阪府八尾市教育委員会主催の同和教育研修講座で事務局峯村が子どもの権利条約からみたCYRの活動を話す。

11月4日

岡山市・岡山南北ネットワーク共催の「子どもの権利条約シンポジウム」で事務局山崎が難民の子どもたちの状況を報告。

11月4～11日

事務局峯村訪タイ。カオイダンキャンプ、タイの被災村の活動視察。

11月7日

湯山佳代、1年7か月の任期を終え帰国。

## 【編集後記】

気になっていたカンボジアプロジェクトの報告が、年内ギリギリで出せました。今年も仕事納めは発送作業です。1992年が平和の年になりますように！（じゅん）